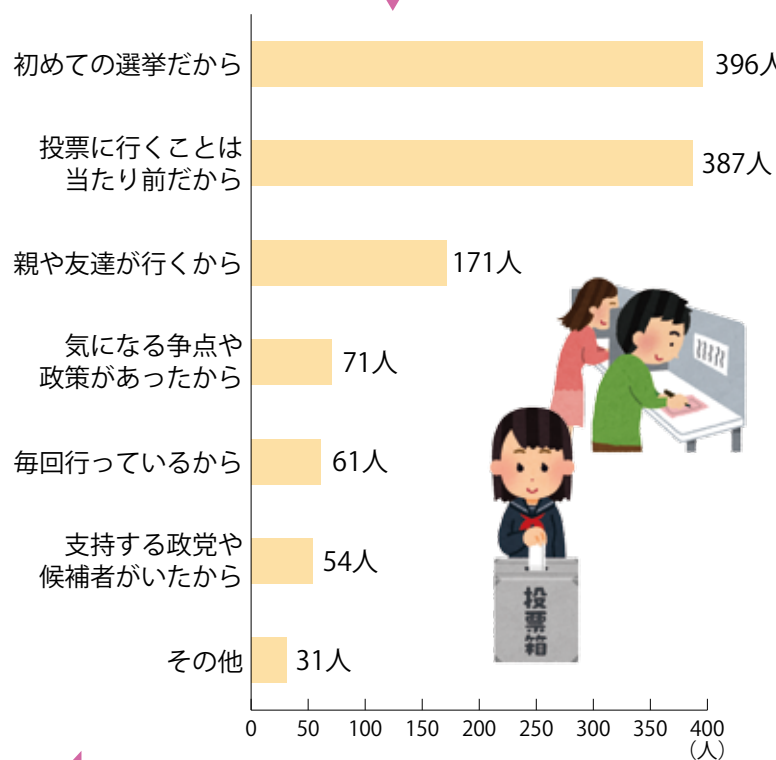




7月の参議院選挙から選挙権年齢が引き下げられ、18歳・19歳の約240万人が新たに投票できるようになりました。若い世代が自分の未来や男女平等についてどう考えているかは、今後の私たちの社会を展望するカギです。

中央大学で、学生たちの投票率を上げる活動をしている「Vote at Chuo!!」の皆さんに、取材に協力してもらいました。

中央大学「Vote at Chuo!!」調べ
2016年参院選 中大学生1,000人アンケートの結果から
選挙に行った理由は？(複数回答可)



18歳選挙権の波
とにかく大学で選挙啓発がしたかった！

私は大学2年生の時、中央大学を日本一選挙がアツい大学にするべく、「Vote at Chuo!!」というサークルを立ち上げました。18歳選挙権が成立したことで、今年から大学生は全員投票できるようになり、身近なところからアクションを起こしたいという想いからです。

まず投票率アップのために学内投票所を設置しようとメンバーを集め行政に働きかけをする。結果半年間ほど交渉を続けるも、八王子市から「住民票や立地の問題があり、効果が見込めないため設置不可」との回答を受け、泣く泣く断念。でもここでは終われませんでした。投票所の設置はあくまでも中大学生に選挙に行ってもらうための手段であり目的ではない、

中央大学「Vote at Chuo!!」
前代表 古野香織 さん

と原点に立ち返り、「中大学生3万人が当たり前前に考えて投票に行く文化を創る」という最終目標を新たに掲げ、再出発。以降、①大学内での啓発②付属高校での主権者教育授業という二本柱を軸に活動してきました。

大学内啓発では、ミスコン運営団体とコラボした選挙啓発キャンペーンや、今年の参議院選挙前に2週間学内ブリス「問う票所」を設置し、選挙に関する疑問や不安を解決していくという企画も行いました。主権者教育授業はこれまで3校で行っており、いずれも大成功でした。「堅い」「難しそう」といわれる政治や選挙のことを少しでも話せたら、ちよつとずつ変わっていくはず。そのきっかけを生み出せるよう挑戦を続けます。

●立川とのご縁は？
30年前 息子の通学に便利な上砂町で家探しを始めた。僕の場合、ピアノが弾ける家というのが大前提で、上砂の米軍ハウスに住んでいた友人に相談すると、「前のハウスが空くよ」と。それで、すぐにその家に越してきました。ところが、引っ越してきた日に、愛猫が行方不明になるという事件が起き、近所をくまなく捜しましたが見つかりません。16日目になって、その日も捜し歩きました。阿豆佐味天神社に出会って、当然のように「猫を返してください」と祈ったら、なんと翌日に猫が帰ってきたのです。

その後、玉川上水の近くに転居したときも、また愛猫がいなくなり、今度はすぐに阿豆佐味天神社にお願いに行きました。自分で言い出しながらかく半信半疑で、ところが神社から帰ってくる、自動車の下からニャーと(笑い)。こういうことを言いふらしまして、結果、「猫返し神社」と言

●「たちかわ交流大使」の仕事は？
大使に就任したとき、市が、相手にお渡しすれば和やかになることと請け合いのピアノが立体的に見える名刺を作ってくれました。これを各地の演奏会で、地元の人に渡しながら「立川と一緒に何かや

りましょう」とアピールしています。何かが始まるというですね。

●ジャズを始めたきっかけは？
私は昭和17年に東京で生まれましたが、家にはすでにピアノがありました。母が子どもの頃から弾いていて、家でも教えていたのです。私も小さいときから、いたずら弾きをして遊んでいました。

中学3年のとき、大学生の兄が仲間とバンドを組みそれに誘われたことから、ジャズの面白さに目覚めました。高校卒業後も、国立音楽大学の作曲科に入る前に2年間ほど演奏活動に専念していた時期がありました。米軍立川基地で演奏したこともありますよ。

鍵盤が飛び出してくる
山下さんのユニークな名刺



●若者にメッセージを
ジャズの世界に入ったとき、母は理解してくれましたが、父は大反対でした。当時は暗黒街に入るようなものでしたから。それでもこれまでやってこられたのは、ジャズが大好きだったからです。

●男女平等参画に思うこと
日本のジャズ界の先駆者は、現在86歳で現役の女性ジャズピアニスト、穂吉敏子さんです。彼女が単身渡米し、ジャズで有名なバークリー音楽院に入学したことで、日本の後進に道が開けました。その後もニューヨークで、子どもを一人で育てながら、自分のやりたい音楽をバリバリとやってこられました。

女性性は男性と発想が違い、とても大きな可能性を持っていると思います。いつも女性の活躍をうれしく思い、拍手を送っています。

平成28年度立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所を認定しました

株式会社
自然教育研究センター

第一生命保険株式会社
立川支店

中村建設株式会社

取り組みの主なポイント

●ひとりひとりを大事に、生きがいとやりがいを守る会社

●衛生委員会が事業所みんなの健康と働き方をリアルタイムでチェック！

●効率化目指し業務見直しを実践

●子育て世代、介護世代のスタッフに寄り添った環境の整備

取り組みの主なポイント

●育児休業中の近況や復帰の状況をランチケーションで確認

●産休・育休時の業務シフトについて事前打ち合わせで希望反映

●毎年の職員満足度調査で改善点のフィードバック実施

●キャリア形成に関する相談で、キャリア開発サポート

取り組みの主なポイント

●地域に貢献！働きやすい環境づくり！社長自らチャレンジ

●社員同士の意見交換で女性が活躍する職場づくり

●若者応援宣言、転職者・インターンシップの積極的受け入れ

●ノーマル業デ、ファミリーサービスで有休取得促進

認定事業所の取り組みがわかる！立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定式&セミナー開催！
平成29年2月3日(金)くわしくは広報たちかわ(1月10日号掲載予定)、またはホームページで



新米ママ子育て奮闘中

水野 理沙さん(主婦)

スにも助かるなど感謝。出先で授乳室があるとまた感謝。

何よりも私の元に産まれてきてくれた我が子に感謝。今までの人生では見られなかった景色をたくさん見させてもらっています。

人間として、どんどん成長していると実感しています。

これから大変なことがたくさん待ち構えていると思いますが、もっといろんな景色を見られると思うと胸が躍ります。

そして、感謝の気持ちを大事に生きていきたいです。

マイ私ステージ

今、こんなことががんばっています

あなたは今どんなことががんばっていますか？
若者3人の「今」を教えてください。

私にとって自動車整備士は天職だと思います。専門学校に行く前は、車はただの足としか思ってませんでした。しかし学校で車の仕組み、工具の使い方などを学ぶにつれ、いつの間にか車のことが好きになっていて、今まで学んできたどの分野よりも真面目に必死に勉強してたと思います。

男社会だからなのか分かりませんが、整備士特有の上下関係はありました。良い意味で鍛えられたというか、社会の厳しさを学ぶことができたと思います。やっぱり男性には力では勝てないので、重いものを持つのにいろいろな工夫が必要でした。世の中では男女平等と言っていますが、まだまだ整備士業界は完全な男社会だと思います。



男性職場でがんばってます

島崎 恵実さん(自動車整備士)



イギリス留学で感じた男女平等

小島 隆平さん(大学生)

「イギリス」と聞くと、どんなイメージですか？
私の場合は「紳士の国」「レディファースト」などでした。しかし実際はもう少し違うものを感じられました。たしかに「レディファースト」という言葉は存在しますが、イギリスの男性はとても丁寧に女性をもてなします。ドアを開けて先に通してあげたり、レストランでは女性から注文を取る。「これがレディファーストか！」と勉強になりました。



しかしそれは男性だから、女性だからということではなく、誰もが、誰に対してもド

男女不平等を感じた思い出や物は？

女性

- 元男子校では女子生徒の意見が通らず、男性主流が見え見えだった。
- 普段の生活では感じないが、就活で男女不平等を感じる。総合職の採用は女性が少ない。
- 飲食店のアルバイトでは、男性がキッチン任せられ、女性は皿洗いに回されることが多い。
- 女性管理職の数値目標を達成するため、人事で女性が優遇されたら男性差別にならないか。

男性

- レディースデー。ニートは男性、昼間ぶらついている男性は不審者というイメージ。
- 高校入試では女子の方が偏差値のボーダーが高かった。男性と女性のいさかいだと、男性の方が責められる。
- 男性専用車両がない。
- 男子アナウンサーとは言わないのに女子アナウンサーと言う。
- 「レディファースト」は好印象だが、この言葉がある時点で男女平等でない。
- 政界、財界の男女の偏り。

男女平等参画のイメージは？

学校のテストで書かされた／理想的なあり方／日本史で聞いた言葉／ちょっとずつ／すぐに解決できない／ジェンダー／アフーマティブアクション／女性の社会進出／輝く正解／男女同一賃金／日本にできるかな？／ポリティカル・コレクトネス／男女共同参画社会基本法／男女が等しい機会で社会や企業に参画できること／市民からできる活動がある

仕事について

女性

- 仕事も続けたいし、結婚もしたいが、母が専業主婦だったので、共働きは子どもがかわいそうではないかと悩む。将来の夫と相談したい。
- 女性にも仕事の道がいろいろ開けたので、その分迷う。
- 女性は結婚すると仕事が変わってしまうイメージがある。
- バリバリのキャリアウーマンになりたい。でも親には結婚してほしいと言われる。
- 社会的なインフラも、社会の意識も女性が輝くようにはできていない。
- 周りは就活をしているが、もう少しやりたいことをしたい。

男性

- 当然自分は働くものと思っているが、「男性＝働くこと」という考え方はおかしいと思う。男らしくても女らしくでもない、自分らしく生きられる社会を作るにはどうしたらいいかを考えていくべき。
- 最近は正規雇用の枠も減ってきているので、収入の安定を確保するために資格を取りたい。一生続けていく仕事なので、やりがいもほしい。
- 関西圏の自治体または会社に就職しようと思っている。
- 働く上でお金も大切だが、社会に貢献できることを重視したい。
- 賃金が不安。
- 自分の興味のある職種に就職したい。
- ブラック企業ではなく、大学で学んだ知識を活用できる職場で働きたい。



Young Generation's Opinion

18歳・19歳・20歳 わたしたちはこう考えている
中央大学「Vote at Chuo!!」の皆さんに聞きました

結婚・育児について

女性

- 親は共働きなのに、母親が全部家事をしている。そうならないよう家事を分担してほしい。
- 結婚や子どもが生まれた時、仕事をやめるかどうか悩むのは女性。男性も一緒に悩んでほしい。家事も半々で。
- 出産後もキャリアウーマンで働きたいが、夫に育休を取ってほしいとは思わない。
- 夫に家事を強制したくない。
- 両親は年収も職種も同じ共働きなので、家事・子育ては全部分担していた。互いにとって何が一番いいのか、また子どもにとってはどうか、二人で相談しながら進めたい。
- マスコミで働きたいが、30歳まではキャリアを積む時期なので子どもは産めず、30歳過ぎで産むと高齢出産といわれる。
- 男性の子育ては抵抗がない。手伝う意識ではなく、主体者という気持ちで。

男性

- 今後女性が社会進出するために男性の家事参加は必須だが、今、仕事の負担が大きい男性に家事もやれというのはちょっと無理がある。まずは男性の働き方改革が必要。
- 家事を女性に押し付けるのは時代遅れ、共働きが増えているのだから家事も折半すべき。
- 家事分担は女性が主体でやり、育児は男性も積極的にかかわることで負担する。
- 家事は共同で行うべき。育児も女性に偏らせてはいけない。男性が育児参加するために社会の意識改革が必要。
- 夫もできる限りでよいので、家事や育児をするべきである。
- 男性の家事・育児への参加がスムーズにいくように、就業時間を柔軟に変えられるような環境づくりや法整備を国が進めていくべき。



立川市男女平等参画推進審議会会長
加藤恵津子さんから

日本社会をど真ん中で支える人材を生む中央大学で、投票率アップ運動が学生の中から起こったのは素晴らしい。「社会は自分の力で変えられる」と考える若者が多いほど、変化は早まるでしょう。気になるのは、運動にミスコン団体を活用したという点。選挙と

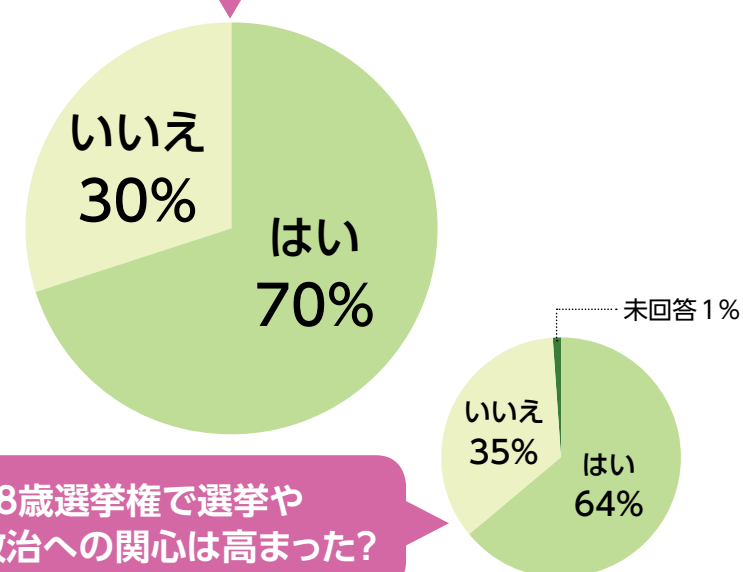
女性の外見は関係ないはず。ミスコンの意味そのものも、議論しなくてよいのでしょうか。未来や男女平等参画についての調査では、法学部の学生が多いせいか、性別役割分業は古い、社会変革が必要という回答が男子に目立つのが興味深いです。ただ、いったん就職すると、男性は女性よりも声を上げなくなりがち。これからは、若い男性がどれだけ勇気を持って行動を起こせるかが重要だと思います。

中央大学「Vote at Chuo!!」調べ

2016年参院選 中大学生1,000人アンケートの結果から

参院選で投票しましたか？

1面より続く



18歳選挙権で選挙や政治への関心は高まった？

情報源としてもっとも重視したものは？

